

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果についての報告

義務教育課

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

国・公・私立の小学校第6学年、中学校第3学年（原則として全児童生徒）

※以下に該当する児童生徒は対象外とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数/数学、理科）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容はそれぞれの教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
 - ③ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。
- (2) 質問調査（生活習慣や学習環境等に関する質問調査）
 - ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査）
 - ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

4 調査実施日

- (1) 教科に関する調査
4/14(木)～17(木) 中学校（理科） ※CBTによる調査
4/17(木) 小学校（国語・算数・理科）・中学校（国語・数学）

(2) 質問調査

4/1(火)～17(木) 学校質問調査

4/14(月)～17(木) 生徒質問調査

4/18(金)～30(水) 児童質問調査

5 本県の参加状況(公立小中学校のみ) ※令和7年7月22日公表値

	公立小学校 【第6学年】	公立中学校 【第3学年】	合計
参加校数	251校	145校	396校
参加者数	14,837人	14,131人	28,968人

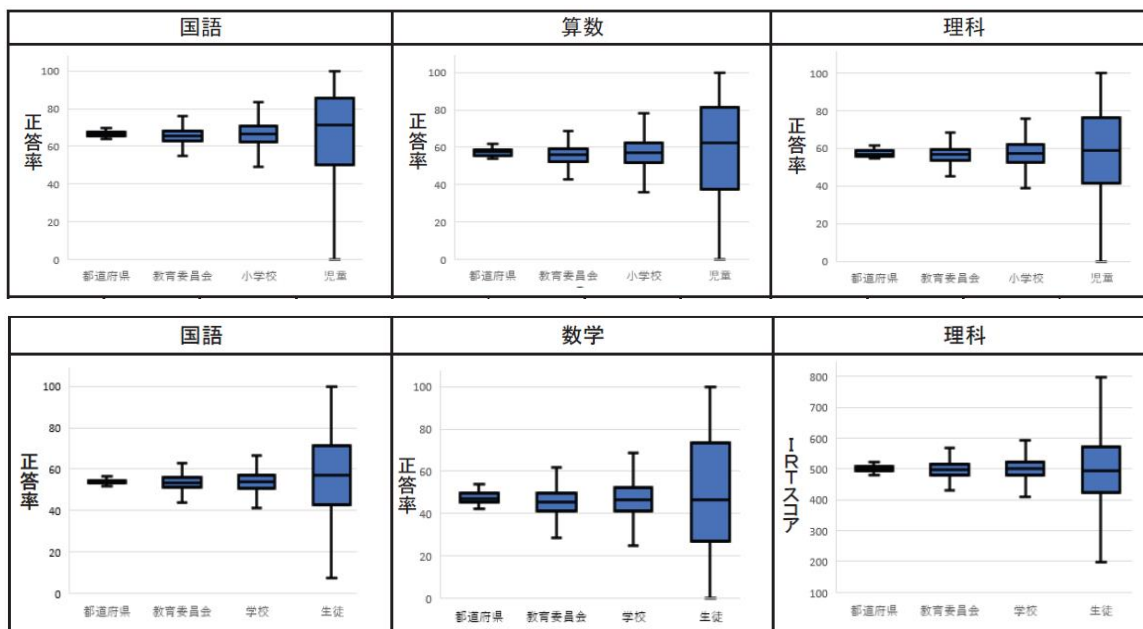
※参加者数は小中ともに国語の受験者数を表示

6 教科に関する調査結果の概要

文部科学省より提供された、「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」によると、「小学校及び中学校における都道府県・指定都市別の平均正答率については、ばらつきの状況は極めて狭い範囲内に収まっている。各教育委員会、各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、前回調査と比べ、ばらつきに変化は見られない。」とされている。

また、諸調査問題は、各年度の問題の難易度を調整する設計とはされておらず、年度によって出題内容も異なる。このため、過年度の正答率と単純に比較することは留意が必要である。

【様々な集計単位で見る正答率・スコアのばらつき ※上:小学校、下:中学校】



7 教科調査・質問調査に関する結果

(1) 小学校 平均正答率(%)

※理科は前回 R4 に実施

教科	R7 沖縄県	R7 全国	R6 沖縄県	R6 全国
国語	64.0	66.8	66.0	67.7
算数	51.0	58.0	58.0	63.4
理科	51.0	57.1	※61.0	※63.3

令和 7 年第 10 回教育委員会会議 報告事項（４）

(2) 中学校（国語・数学） 平均正答率(%)

教科	R7 沖縄県	R7 全国	R6 沖縄県	R6 全国
国語	49.0	54.3	53.0	58.1
数学	38.0	48.3	43.0	52.5

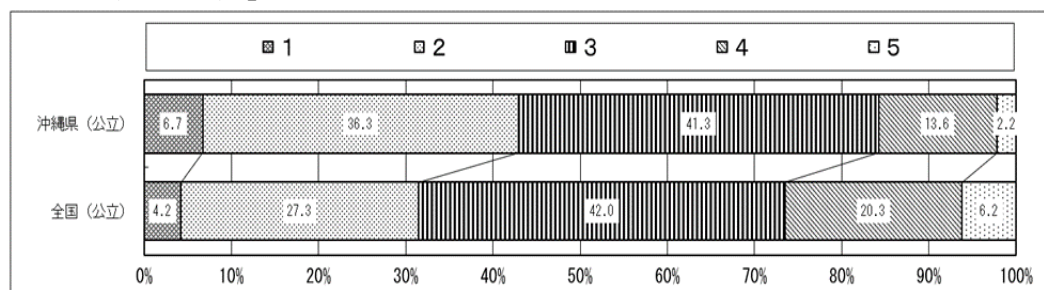
(3) 中学校（理科）

教科	平均 IRT スコア	
	沖縄県	全国
理科	465	503

中学校理科の調査は、今年度より CBT（コンピュータ使用型調査）・IRT（項目反応理論）が導入され、問題への動画の使用等が実施された。

本県の IRT スコアは 465 で、基準とされる IRT バンド 3 の範囲内であった。

【IRT バンド分布比較】



(参考) 全国学力・学習状況調査における IRT スコア・IRT バンドについて

① IRT スコア…IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。

② IRT バンド…IRT スコアを 1 ～ 5 段階に区切ったもの。3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。

※IRT スコア・IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

③ 全国学力・学習状況調査に IRT を導入するメリット

ア 調査日の複数設定が可能となり、各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。また、今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能となる。

イ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

(4) 質問調査 ※肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)

児童生徒質問【成果】 全国平均を上回る主な質問項目	R7 小学校		R7 中学校	
	県	全国	県	全国
(小中 5)自分には、よいところがあると思いますか	87.5	86.9	88.2	86.2
(小中 6)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.9	92.2	92.9	92.2
(小中 28)授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか（ほぼ毎日 1 回以上と回答）	52.2	46.7	64.4	53.2

令和7年第10回教育委員会会議 報告事項（4）

- ・授業や教育活動全体において、教師による児童生徒の良さや成長を認め、評価する取組を通して、児童生徒が安心して学べる環境が整いつつある。
- ・小学校では、ICT機器（1人1台端末を含む）を活用した授業をとおして、楽しみながら友達と協力し学習を進めることができつつある。

児童生徒質問【課題】 全国平均を下回る主な質問項目	R7 小学校		R7 中学校	
	県	全国	県	全国
(小中 22)あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）25冊以下	49.0	36.8	51.6	38.9
(小中 19)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※全くしないと回答	17.0	17.5	30.8	15.4
(小中 31)自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	61.3	68.6	57.6	63.0

- ・全国と比べSES（社会経済的背景）が低いグループが多く、その割合は増加傾向にあるため、よりきめ細かな児童生徒理解に基づく支援が必要と考える。
- ・週末の学校外での勉強について、「全くしない」と回答した割合は、全国では中学生が小学生より減っているが、本県では中学生が小学生より大きく増加している。
- ・授業等では、聞き手を意識して伝えたい内容や伝え方を工夫し、発表することに課題を感じる児童生徒が多い。

学校質問【課題】 全国平均を下回る主な質問項目	R7 小学校		R7 中学校	
	県	全国	県	全国
(小中 29)授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている	61.4	64.1	47.6	56.6
(小中 82)学校では、家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	90.9	90.4	71.7	84.0

- ・授業や家庭学習の取り組みを通して自立した学習のできる児童生徒の育成が必要と考える。

8 今後の取組

- 調査結果分析を行い、各学校、市町村教育委員会及び教育事務所等と課題を共有する。
- 各学校においても調査結果分析を行い、各学校の現状及び課題を踏まえた具体策を講じるとともに、PDCAサイクルに基づき改善を進めていく。
- 各種連絡協議会において、調査結果説明及び対応策等の協議を行うとともに、指導主事等による学校訪問を引き続き行い、子供の姿に基づく授業改善を中心とした「自立した学習者」育成プロジェクトを推進する。